

群れを離れた狼は

畑山 博

著者紹介

作家。昭和10年東京生まれ。NHK教育テレビ・ラジオの放送台本等を執筆。昭和41年「一坪の大陸」で第9回『群像』新人賞受賞。その後、意欲的に創作活動を続け、昭和47年「いつか汽笛を鳴らして」で第67回芥川賞受賞。著書に「狩られる者たち」「蝸牛のように」「母を拭く夜」などがある。

群れを離れた狼は

著者 畑山 博
発行者 小沢 和一

検印を廃す

発行所 株式会社 青春出版社
162 東京都新宿区若松町73番地
振替番号 東京九八〇二番

TEL (203) 五二二一〇九

★この本をお読みになったご意見ご感想を編集部までお寄せ頂ければ幸いです。

印刷・堀内印刷 製本・大口製本

0000-207000-3822

© PUBLISHING SEISHUN Co., Ltd. 1976

群れを離れた狼は

畑山 博

青春出版社

はじめに——その餌^{えさ}を食べる前に

十年後どんな若者が勝つか。

私がこの本を通じて語りかけたいのは、そのイメージである。

人生を競争と呼ぶとき、そこにはドライすぎて汚ない意味も含まれるけれども、でもそれだけではない、もっと上質で深い意味もある。そのことを探り出してゆこうというのが、この本を書いた私の目的の第二点である。

今、世の中はあんまり醜くすぎ、とげとげしすぎている。誠実な若者ほどソソをする場合が多い。

そんなとき、ただ

「清く生きろ、正しく生きろ、誰も見ていてくれなくともいいではないか」

といった式の人生哲学だけを支えにしていたのでは、おとなしい者は蹴散らされてしまう。

そんな不愉快なことではないではないか。

○こつこつと努力をつづけ、よい仕事をしているのに、どうしてか認められないでいる者

○やさしい性質をもっているために、この醜くい社会の中で生きにくい思いをしている者

○誠実すぎてソンをしている者

○まわりのザコたちよりも実力があるために、ねたまれてソンをしている者

そういう人びとが、どのようにして状況を切り開いていったらいいのか。どんな場面には、どんな作戦が必要なのか。

そのことを、イメージとして、私は語りかけたいのである。

畑山 博

目

次

はじめに——その餌^{えさ}を食べる前に 3

——群れの中の状況から——

I 世間がつけたキミの値段はいくらか……………13

1 ほえる犬たちの優越感 15

娘たちの重大な問題箇所

ヘンなものさしを持つ人間

いごこちの悪い場所

優越感というくさったエサ

2 浮かび上がるヤツ沈んでしまうヤツ 26

月給どろぼうの巣の中

冷たい眼つきで見る男たち

有能なヤツでも埋れてしまう

3 人間かんけいの裏側の敵 36

リズムが合わなくなっていく関係

II 幸福だと思える自分の場所はどこにあるか……47

——群れの中のたたかい——

好意の接点にある存在
危い関係の第三者
自分を追い越していきそうなヤツ

1 自分をとりまく五人の悪いヤツら 49

さまざまな格好の憎いカオ
学歴差別をしたがるヤツの本性
目の前に姿をさらしている敵

2 嫌なヤツには対処のしかたがある 59

のさばる小粒な男
反撃は一度にどかっとやった方がいい
ペコペコごまする男にギリラバンチ

3 バカな上役ばかりのさばる会社 72

どっちがダメ人間か

4 旅は自分のために行くのだ 84

あの壁この壁がおれをふみにじる
どこへいけばおれをみとめるのか
おれの職場は必ずどこかにある

幸福、責任、自由の中のたたかい

どこにあるか幸福のアリバイ
自分のすべての力をふるう場所

III 群れの中のおれ 群れの中のおれ 95

1 一人のおれのほんとうの顔 97

塀の向こう側にいる男
相手にムリにつくってみせる自分の顔

2 自分の中にうごめく敵 107

自分を包み込む見えない群れ
おれが所属しているのはどんな群れか

IV

——群れの中の反抗—— じやまな劣等感に苦しむヤツ………

群れの中と外には大きい違いがある
群れの魔手からとび出せるか

117

1 だめ学校のだめ連中への反抗

119

とんでもないインチキ学校で
反抗してはみ出したさぼり屋たち
バカにされて劣等感にとりつかれた男
むだな反抗と分かってもつき上げてくる血

2 がまんを持たないヤツは勝負に勝てない

130

何をやってはいけないのか
事実を知らないのは先生ばかり
人の心の深いところに埋れているあの心
早く性を満たされると大きい仕事はできない

V

おのれの荒野を歩け

1 自分の悩みとの対決

143

141

目の前の負い目をふっきたるために

二本立て作戦が効果を生んだ

悩みを大切にすることがいかに大事か

2 どう努力してもだめになるのはなぜだ

154

おれを傷つけたヤツは一体誰か

身にこびりついた癖が、いんこさになる

すべて嫌になってもこの一点は失うな

手がかりはどうやればつかめるか

VI

10年後どんなヤツが勝つか

165

ひたすら明日を目指す

1 そんなにせっかちにならなくていい

167

2 甘えの時代は終りをつけた

180

じゃがいもで潜水服をつくる法
都合のいい事だけかんじようする考え方

牧場を逃げ出した亀

生きがいにも価値の高い低いがある

かっこいいと思ひ込んだあわれなヤツ

ナンセンス男

甘えの反対はきびしさではなくなった

3 差をつけるチャンスがやってくる

189

オフィスの電話が恐くて見れない男

増えるくらげのほんほんみたいな連中

いまじゃ大学出たって現場の作業

とぼしい脳ミソの誇り高い連中

4 ものには扱いがたつてものがある

201

イキがるヤツは低級なりくつが大好き

こんなヤツにはどうやるか

ならば、どんなヤツがほんものなのか

5 恥しい後退、すばらしい後退

212

耐えつづけた勇士

七年目の勝利

ほんとうの自分が根を下ろす場所

6 二六〇〇年前の予言

224

アリとキリギリス

エビローグ

群れの中の状況から――

I
世間がつけたキミの値段はいくらか

ひとりぼっちのタイガ

「ここは、おれのいるべき群れではない」

タイガは思った。

いっしょに町についた数万びきの野良猫たちは、みな何の恥ずかしさもなく汚ないごみ箱をあさっていた。くさりかけたねずみの死骸を奪い合っていた。けれど、タイガには、どうしてもそんなことは出来ないのだった。

1 ほえる犬たちの優越感

娘たちの重大な問題箇所

ミス・サクラ祭りコンテスト

ミス・△大学祭コンテスト

ミス・日本コンテスト

ミス・チョコレート

ミス・トンカチ

日本人という連中は、まったくミスが好きな国民だ。ある人が、日本中のミス・コンテストの数を数えたら、毎年二九二〇〇以上はあることが分かったという。

ところで、初めにことわっておくけれども、私は、そういうコンテストといったものが大ざらいである。